文部科学省 私立大学戦略的基盤研究形成支援事業
「優良和薬の確保・供給のための研究」成果報告会報告書

日時：平成 30 年 3 月 9 日（金）
場所：京都薬科大学 A21 講義室(愛学館 2 階)
参加者数：127 名　　本学：118 名（学生 95 名、教職員 23 名）
　　本学以外：9 名

本支援事業は、国産生薬として当帰、柴胡、甘茶、延命草などの基原植物の栽培、生薬の有効成分群、薬効証明までをグループ内で密に連携をとり達成することによって、優良品種の選別や栽培技術を確立し、地域での生薬生産の推進に貢献することを目的としたものであり、2015 年 4 月～2018 年 3 月の 3 年間実施された。2018 年 3 月 9 日に行われた成果報告会では各研究者の課題毎の独自研究の展開に加え、研究者同士が各専門の領域を超えて連携して得られた結果が報告され、学生、教職員を合せて計 127 名が参加した。

本成果報告会では開会に際して、大学長 後藤直正先生から本プロジェクトの意義を開会の辞としてご挨拶頂き、本プロジェクトの研究代表者である松田久司先生から本プロジェクトの概要の説明があった。次に、当帰、甘茶、延命草を研究テーマとして、栽培条件の改善と成分含量の変動、含有成分の解明、*in vitro* 試験および動物実験で薬効の解明などをオムニバス形式でそれぞれの研究者が連続して発表を行った。具体的には、①当帰の栽培、成分分析、薬効評価および成分合成について②甘茶の栽培、成分分析、成分含量の季節変動および薬効評価について③延命草の栽培、成分研究および薬効評価について研究発表が行われた。続いて、特別講演として国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター　センター長　川原信夫先生に「薬用植物の国内栽培化の現状と課題 ～薬用植物資源研究センターの取り組みを中心に～」と題してご講演いただいた。さらに、学外共同研究者として参画していただいた近畿大学教授 森川敏生先生に「川芎の耐糖能改善作用」についてお話しいただいた。成果報告会終了後にポスター6 演題を意見交換会会場に移動し、発表内容の説明を受けながら意見交換がなされ、特に生薬の国産化における大学薬用植物園の役割について活発な議論がなされた。

本支援事業は今年度で終了するが、本支援事業で形成したネットワークや取り組みは今後も継続していくこととした。

後藤直正先生

松田久司先生
（研究代表者）

川原信夫先生

森川敏生先生